

## 顔のほてり

東邦大学医療センター大森病院皮膚科臨床教授

関 東 裕 美

(聞き手 池田志孝)

50歳男性、誘因なく約5年前より暖かい部屋に入ると額、頬部が赤くなり、強くほてりを生じることが続いています。特に、動悸、脈拍、血圧等の変動はなく、向精神病薬などもほとんど効果ありません。

いかなる原因でなるのでしょうか。また、治療法についてもご教示ください。

<福岡県開業医>

**池田** 関東先生、なかなか答えづらい質問が来ています。質問の症例について先生はどのように思われますか。

**関東** とても難しく、詳しい調査をしなくてははいけません。45～50歳になると、男性も女性と同じように、体のケアをしなくてははいけない。成人病のほうも、この方はどうなのでしょう。

温度変化で赤くなるということは、のんでいる薬の影響はどうだろうかとまずお考えいただかないといけなし、住んでいらっしゃる場所がとても日当たりのいい場所ですと、紫外線に対する異常反応が心配です。男の方は紫外線ケアをされない方が多いので、だんだん光老化というのも起こってきたりします。光老化で皮膚の浅いところの

血管が開いてしまうと赤くなりやすい、温度変化により血管拡張を起こしやすいような状況を招いてしまいます。血圧の変動はないとありますが、もしかすると血圧の薬の影響はどうでしょうか。糖尿病性の赤ら顔もあるでしょうし、向精神病薬は効果がないということですが、緊張して赤ら顔というのは、もちろん交感神経が優位になり起こってくることもあります。赤ら顔はもう少し若いときから起こるような気がします。むしろこのケースでは内臓疾患の可能性について、薬のことも含めて考えていただく必要がありそうです。

それから、皮膚の疾患がいろいろあります。今までこの方に例えば花粉症がなかったか、喘息はなかったか、そ

表 中高年の赤ら顔

原因

- ・心 因 性…赤面症（緊張興奮で交感神経優位に反応）
- ・皮膚疾患…脂漏性皮膚炎、酒さ、アトピー性皮膚炎
- ・内臓疾患…肝炎・肝硬変、糖尿病、高血圧、多血症、クッシング症候群、カルチノイド症候群
- ・外 因 性…毛細血管拡張作用のあるもの  
アルコール、香辛料  
光線過敏型薬疹（サイアザイド系降圧利尿剤、経口糖尿病製剤、抗菌剤、非ステロイド系消炎剤）  
外用ステロイド誘発（酒さ様皮膚炎）

ういう小さいときのアトピーの素質が起こってくるような年代かもしれません。花粉症が起こると花粉が皮膚に付いて、違和感やかゆみでこすったり、赤みが出てきやすくなります。あるいはアトピー素質があるとスギ花粉皮膚炎が起こりやすいかもしれません。皮膚の代謝、内臓代謝によって皮膚の変化が起こる脂漏性皮膚炎という皮膚の病気もあります。皮脂分泌状況というのは40代、50代になると、内臓の代謝状態によってよい皮膚の脂が出ないと顔も赤くなりやすくなります。脂漏性皮膚炎は内臓の指標になるような皮膚の病気です。

ですから、その辺の疾患の鑑別というのはとても大事で、向精神病薬を使ってみるということではなくて、もう一度内臓疾患を考え、薬剤のことを考えていただきたいと思います。それらの関与がないようだと、皮膚の病気

で一番心配なのは、酒さという病気です。

**池田** まずは、50歳前後ですので、男性更年期というのがありますね。男性更年期というのは、女性ほど有名ではないですが、顔のほてりなど、あるのでしょうか。

**関東** ホルモン変動で、特にアトピー体質などがある方は非常にコントロールが悪くなったり、じんましのコントロールが悪くなったり、赤ら顔、ほてり顔になったりということで、よく外来におみえになります。内臓を調べてみると、中性脂肪やコレステロールの異常がなくて、ホルモンの影響でしようかねというお話をさせていただきますこともあります。

**池田** もう一つは、先ほど先生がおっしゃった薬ですが、質問に血圧等と書いてありますので、降圧剤をのんでいらっしゃる可能性もある。

**関東** サイアザイド系の配合をされた降圧剤が、もう10年以上前になりま  
すか、またカムバックしてよく使われ  
ています。副作用で問題になったサイ  
アザイドでしたが、やはり血压コン  
トロールにはよいのでしょうか。降圧  
剤による光線過敏症例を多く見るよ  
うになりました。

**池田** 薬剤性光線過敏ですね。これ  
もたいへんですね。昔はよく話題に  
なりましたが、最近忘れ去られて  
いましたが。特に男性の方で屋外の活  
動がある方は、あまりサンスクリー  
ンとかつけられませんか。

**関東** そうですね。女性とその辺の  
ところが違って、より重症化するとい  
うのがあります。

**池田** それと、50歳ということは、  
先ほどメタボ症候群とか糖尿病とい  
うことがあるのですけれども、糖尿病  
の方も。

**関東** 糖尿病性の徴候に、赤ら顔が  
あります。

**池田** それは薬にプラス、そんなこ  
ともあるだろうということですね。

**関東** そうですね。血管神経の異常  
でということもあると思います。

**池田** 反応性のものもあるだろうと  
いうことですね。先ほど皮脂の分泌も  
含めて、男性のお肌の曲がり角とい  
う感じでしょうか。

**関東** おっしゃるとおりです。

**池田** 先ほど酒さというお話が出た

のですけれども、これはどういったも  
のなのでしょう。

**関東** 自律神経の関係、あるいは胃  
のぐあいが悪かったり、まさにこう  
いう曲がり角の方には、とても悪くな  
るのにぴったりの要素があると思うの  
です。紫外線でもとても悪くなります。  
男の方も皮脂分泌能が落ちてきて、乾  
燥を感じてくるころです。乾燥を何と  
かしてみようかと思って、奥様のク  
リームでもつけたりすると、それでま  
たかえてピリピリしたり、むしろい  
ろいろ悪いことが重なって、顔が真っ  
赤になっておみえになる方が時々い  
らっしゃいます。

**池田** 酒さというのは、先ほどの脂  
の代謝に関係するものなのでしょう。

**関東** 皮脂の代謝のほうは脂漏性皮  
膚炎のほうに関係するかなと思うの  
ですけれども、ピロリ菌などが関係す  
ることがあります。胃のぐあいが悪  
くて、ピロリ菌除去をして酒さ性の  
変化が治ったという方もいますので、  
全身のバランスが崩れてくると、ち  
ょうど50代前後のところは危険で  
す。酒さという病気も、ある日突然  
起こることもあるようです。男性で  
花粉症をきっかけに顔の赤みとほ  
てり感が出てきたという方が先日  
も受診されました。

**池田** 酒さのイメージですと、赤  
ら顔とか、血管が拡張したりとか、  
一部ニキビ様になったりとか。

**関東** 男の方は突然ニキビが大きく

なって、鼻瘤といえますか、1度、2度、3度と酒さのグレードは分かれています。軽いものから徐々に悪化してくるのではなく、男性は急激にだーっとすごいニキビが出てきてしまうような、そんなケースもあるようです。

**池田** ちょっと嫌ですね。

**関東** その辺のところは、皮膚科専門医に正しい治療をしていただきたいと思いますし、増悪因子、誘発因子、50代はがんを含め内臓をしっかり調べて、デルマドロームである皮膚の状況というのは無視しないことが大切です。内科的なアプローチ、皮膚科的なアプローチ、それぞれ専門性を高めて診ていくということがとても大事なように思います。

**池田** なかなか複雑な病態ですね。

**関東** 酒さは複雑な病気です。本当に治療に苦慮します。

**池田** 最近は何かに、何かいい薬はあるのでしょうか。

**関東** まだ適応疾患として認められてはいませんが、外用剤で一部自費でメトロニダゾールという、がんの終末治療時に……。

**池田** 乳がんですか。

**関東** そうですね。

**池田** においがすごいという。

**関東** においに対するQOLを上げるということで、もともとトリコモナスの感染症治療薬ですが、アメリカでは外用剤でどんどん使っている薬です。

日本は適応が通っていないのですが、追加適応の予定もありそうです。

**池田** そうですか。それはいいですね。

**関東** 治験も予定されているということです。酒さにより外用剤がおそらく日本でも使えるようになるのではないかなど期待しています。

**池田** それは楽しみですね。

**関東** 今のところ、例えば赤くて、ほてって困るときには、抗菌剤の内服や外用、男の方は嫌がりますけれども、遮光対策もうるさくいいます。

**池田** やはりサンスクリーンはしっかりやらないといけない。

**関東** 紫外線が直接悪くします。光によって老化が進んで、血管拡張がよけい起こってくるということは、温度差により反応するようになる。お風呂から出た後のほてり感というのがなかなか取れなくなって、真っ赤っ赤な、いつでもお酒を飲んでいるような顔ですから、酒さという名前がついています。

**池田** お酒を飲んでいるのではないかとされるわけですね。

**関東** 男の方も保湿をしたり、遮光をしたり、スキンケアに目覚めていたかかないと、いろいろ日常生活上のトラブルが増えてくる年齢だという自覚を持っていただくのが大事ではないかなと思います。

**池田** もう一つ、先ほど脂漏性皮膚

炎というお話が出たのですが、これは最近はどのように治療されるのでしょうか。

**関東** 以前はステロイド外用剤ばかり使っていましたけれども、皮脂の常在菌のコントロールをしたほうが良いということを今、多くの先生が認めていると思います。抗真菌剤の外用を、特に脂漏部位、眉毛、鼻翼、皮脂分泌の多いようなところに使います。脂漏性皮膚炎でもかさついたり、赤くなったりということがありますので、保湿をしながら、皮脂分泌のコントロールがうまくいくような指導をします。乾燥しているところと、少し脂っぽいところの差が激しいと、よけい赤くなったり、かさかさしたりするので、スキンケアが大事なかなと思います。

**池田** 背景に皮脂の変化があるわけですね。

**関東** そうですね。

**池田** そこに紫外線が加わったり、常在菌が絡んだり、以前ですと「皮膚炎だからステロイド」と言っていた。これはかえってよくないわけですね。

**関東** そうですね。病気を悪くします。ステロイド外用剤による酒さ様の皮膚炎は、かえって赤さを助長してしまうことがあります。

**池田** それもまたひどいですね。

**関東** ですから、専門の医師にきちんと皮膚の疾患、内臓が悲鳴を上げていることで起こってくるような皮膚疾患、治療は少し工夫をされない、副作用でより悪くなってくる酒さという病気もあります。ぜひ専門医のご意見をいただくというのが大事な疾患かなと思います。

**池田** どうもありがとうございました。